

# 近畿大学 教育論叢

The Research Journal of the Teacher Education Department  
Kindai University

第32卷第2号



2021

■ 近畿大学教職教育部 ■

近畿大学教育論叢

第三十二卷第二号

令和三年(二〇二一)二月

近畿大学教職教育部

 近畿大学

# 目 次

## 論 文

コロナ禍における学校の安全管理と学校教育への影響

Influence on School Safety Management and School Education in COVID-19 Pandemic

……………丸岡 俊之 (MARUOKA Toshiyuki)… 1

異なる競技レベルにあるフットサル選手が行う経験の意味づけのあり方

Methods of Realizing the Meaning of Their Own Professional Practice in Case

of Futsal Players with Particular Reference to the Levels of Competitive Skills

……………杉浦 健・加藤未渚実・筒井清次郎

(SUGIURA Takeshi・KATO Minami・TSUTSUI Seijiro)… 23

管理職は教員評価システムをどうとらえているのか？

—大阪府教職員の評価・育成システムについてのアンケート結果から—

How Managers Perceive the Teacher Evaluation System?:

From the Result of a Questionnaire about the Evaluation and Training System

for Osaka Faculty and Staff……………杉浦 健 (SUGIURA Takeshi)… 43

同時双方向型とオンデマンド型を融合したメディア授業に対する大学生の評価

The Research on the Evaluations among University Students

over the Media Classes Combining both Interactive and On-demand Approach

……………吉川 武憲 (YOSHIKAWA Takenori)… 73

地元就職促進科目は地元就職に有効か

Does a Subject for Promoting Local Employment Ameliorate Local Employment ?

……………頭師 暢秀 (ZUSHI Nobuhide)… 85

教職課程履修者の中・高等学校における部活動についての意識調査

Study of Awareness on Club Activities in the Teaching Profession Course

……………西仲 則博 (NISHINAKA Norihiro)… 103

「教職入門」試論Ⅲ

—「チームとしての学校」をめぐって—

A Study of “Introduction to Teaching Profession” (Ⅲ):

About School as a Team……………中田 睦美 (NAKATA Mutsumi)… 131

実践報告

「総合的な学習の時間・特別活動論」の1年間の実践を振り返る

……………富岡 勝 (TOMIOKA Masaru)… 151

随 想

近畿大学の6年……………杉山 友重 (SUGIYAMA Tomoshige)… 163

教職教育部での勤務の思い出

—担当した業務を通して7年を振り返る—

……………中西 修一 (NAKANISHI Syuichi)… 169

編集発行内規

投稿要領

編集後記

## 『近畿大学教育論叢』編集発行内規

第1条 近畿大学教育論叢（以下「本誌」という）は、教職教育部が年1回以上発行する。

第2条 本誌の編集、発行の任にあたるため編集委員会を置く。

2. 編集委員会は、委員長1名、委員若干名をもって構成する。
3. 委員長、委員は、教職教育部教授会の承認を経て、教職教育部長が委嘱する。

第3条 投稿者（執筆者）は、原則として本学園教職員に限る。但し、編集委員会の議を経て教職教育部長により投稿を認められた者はこの限りではない。

2. 投稿者は、別に定める「投稿要領」に従って、原稿を作成することとする。

第4条 原稿の校閲および採否の決定は、編集委員会が行う。

2. 編集委員会は、投稿原稿の本誌掲載の採否を判断するため、審査を行う。
3. 編集委員会は、投稿者に対し、上記審査に基づき、内容の修正等を求めることができる。

第5条 編集発行内規の改正に関しては、編集委員会の議を経て、教職教育部教授会で決定する。

第6条 当該原稿の著作権は、著作者および共著者に帰属する。

2. 著作者および共著者は、当該原稿に係わる複製権、公衆送信権及び譲渡権の許諾を近畿大学に与えるものとする。
3. 近畿大学が当該原稿の電子化・公開を委託する機関に対して、公衆送信権及び複製権の許諾を与えるものとする。

附 則

この内規は、平成24年4月1日から施行する。

## 『近畿大学教育論叢』

(The Research Journal of the Teacher Education Department, Kindai University)

### 投稿要領

- 1) 原稿は未発表のものに限る。
- 2) 原稿は原則として、ワープロを使用して作成、提出するものとする。
- 3) 原稿締め切り時に、原稿をコピーしたものを2部、提出する。査読終了後、掲載が決定した論文については、コピーした原稿1部と、訂正したデータをメールで編集委員会に提出する。
- 4) 原稿には表紙を付し、次の事項を記入する。
  - イ. 表題 (含む副題)
  - ロ. 表題の英文 (含む副題)
  - ハ. 氏名、所属、職名
  - ニ. 連絡先 (教職教育部の専任以外の投稿者の場合、メールアドレスを含む)
  - ホ. 別刷りの必要部数 (規定部数を50部とし、それを超える分は自己負担とする)
  - ヘ. キーワード (5個以内)
- 5) 用紙はA4判を用い、原則として横書きで原稿を作成する。40字×30行の書式で、原則30枚以内とする。英文の場合は、原則としてAPAに準拠し、10,000語以内とする。提出に際しては、専門家の英文校閲を経たことを証明する書類を添付する。
- 6) 手書きの場合は、投稿者は編集委員会に申し出る。前項の字数を超えないことを条件に、書式、枚数などを協議する。
- 7) 本文中で、活字の大きさ、書体を変える場合は、具体的に指示する。
- 8) 表、図、写真などは、刷り上がりの大きさを指定し、具体的に指示する。
- 9) その他原稿の投稿に関しては、編集委員会で協議する。
- 10) 投稿原稿の執筆は、次の通りに行う。
  - ①英文の題名、副題、著書名については、すべての単語 (前置詞および冠詞 theなどを除く) の最初を大文字にする。
  - ②英文論文題名の副題は、コロン (:) で分ける。
  - ③和文の句読点は、(、) (。 ) を用いる。文献では、コンマ、ピリオドを認める。
  - ④図は、Figure 1、Figure 2あるいは、図1、図2とし、表は、Table 1、Table 2あるいは、表1、表2のように通し番号をつけ、論文内で統一された表記を使用する。

⑤必要に応じて大見出し、中見出し、小見出しを用い、その表記は次のようにする。

大見出し 1. 2. ……

中見出し (1)、(2)……

小見出し ①、②……

⑥引用文献・資料は、以下のように記述する。なお注について文献を示すことも可能とする。

著者名、発行年、題名、出版社、引用ページ数（頁、ページ、p など）

著者名、発行年、論文名、雑誌名、ページ

令和元年5月1日改訂

## 編 集 後 記

令和二年度の近畿大学教育論叢第2号を発行いたします。

感染拡大防止への緊張感が続くなか、投稿や査読、修正に係る従来の手続きもペーパーレスで進めるなど、投稿者のみならず編集に携わる先生方にもご不便をおかけいたしました。先生方のご協力によって、本号には、7本の論文、1本の実践報告、そして2本の随想を掲載することができました。厚く御礼申し上げます。

本号には、「コロナ禍における学校の安全管理と学校教育への影響」(丸岡論文)や「同時双方向型とオンデマンド型を融合したメディア授業に対する大学生の評価」(吉川論文)など、コロナ禍ならではの研究成果もございます。こうした知見は、「今」に限定されるものではなく、危機をきっかけに明らかになった学校の安全管理上の課題や学校教育の可能性を問う、今後に活かされる知見です。次号にも、「今」を振り返り「未来」を拓いていくような啓発的な論考をお待ち申し上げております。どうぞ、振るってご投稿ください。

また、本号の随想は、長年、近畿大学教職教育部の教育にご尽力賜りました先生方に、それぞれの教職教育部での思い出を綴っていただいたものです。杉山友重先生には、進路委員会の委員長として教職ナビをまとめ、教員採用試験の対策だけではなく、教員として巣立った卒業生のフォローアップに至るまで、きめ細やかなご指導をいただきました。多くの学生が夢を叶え、学校現場で活躍しておりますこと、先生の奮闘があつてのことと感謝申し上げます。また、中西修一先生には、本学教職教育部の学生の指導に加え、大阪教育大学連合教職大学院との連携の中心としてご活躍いただきました。大学院に進学した学生が見違えるほどに成長し修了していく姿を見るに、先生のご苦勞やご尽力に頭が下がる思いがいたしました。

先生方の思いをしっかりと受け継ぎ、教職教育部の発展にいっそう貢献して参りたいと存じます。この場を借り、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

近畿大学教育論叢編集委員会

光田 尚美、小口 功、下村 隆之、高橋 朋子

---

### 近 畿 大 学 教 育 論 叢 第32巻第2号

令和3年2月20日 印刷

令和3年2月20日 刊行

発行人 近畿大学教職教育部長  
戸井田 克己

発行所 近畿大学教職教育部  
577-8502

東大阪市小若江3丁目4番1号

印刷所 近畿大学管理部用度課(出版印刷)

---